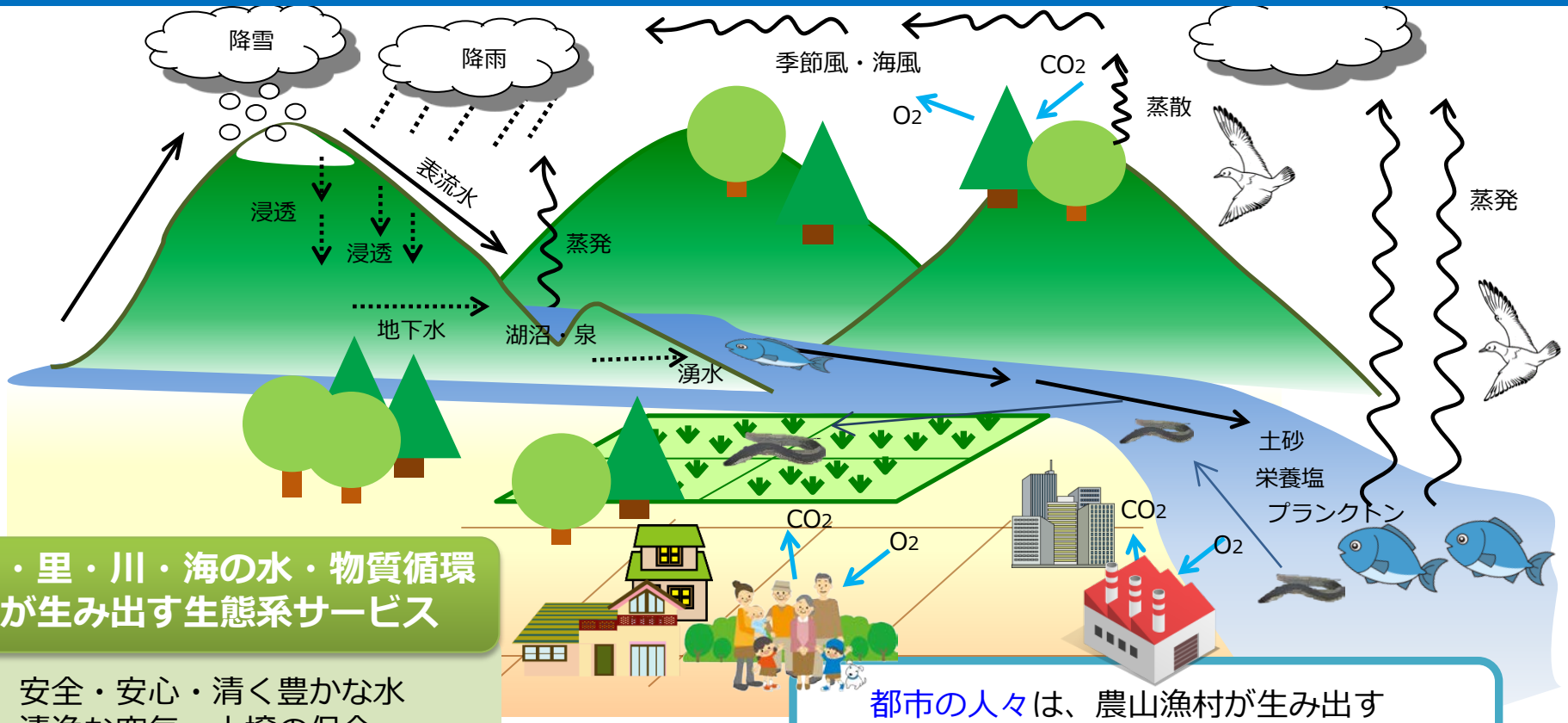
つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト
今後の展開について

つなげよう、支えよう 森里川海

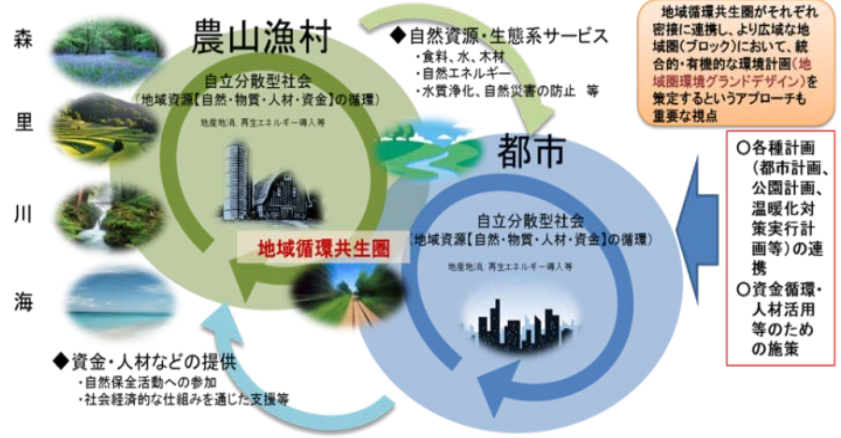
森里川海の循環が生み出す恵み



森・里・川・海の水・物質循環が生み出す生態系サービス

安全・安心・清く豊かな水
清浄な空気・土壌の保全
安全で美味しい食糧
バイオマス
地域特産品
地域の自然に根ざした文化
災害防止
レクリエーション

都市の人々は、農山漁村が生み出すこれらの恵みを受けてくらしている。



森里川海の連環確保の必要性－顕在化する暮らしへの影響－

森・里・川・海といった自然環境が提供する生態系サービスの恩恵は、全ての国民が享受。

人口減少

気候変動

高齢化

過剰開発

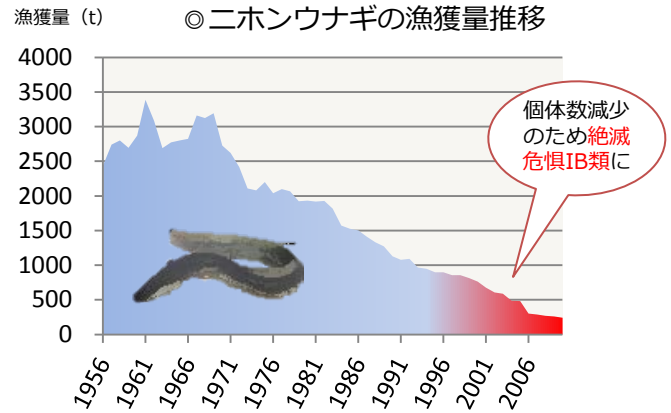
過疎化

つながりの喪失

近年、様々な要因により、我が国の自然環境は荒廃し、国民の暮らしにも影響。

□ 資源の枯渇

森･里･川･海のつながりが失われ、乱獲や海洋環境の変動なども相まって、ウナギなどの身近な資源が枯渇。



資料：水産庁　内水面漁業・養殖業魚種別生産量累年統計より

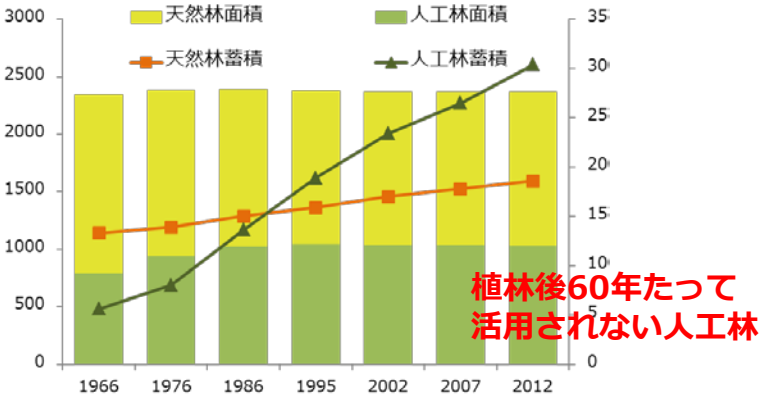
□ ふれあいの機会の減少

里地里山の荒廃により、子供達が自然にふれあう機会が減少し、生物多様性を保全する国民意識も低下。

□ 森林・里地里山の荒廃

□ 鳥獣被害の深刻化

人の管理が不足することにより、人工林の荒廃や耕作放棄地が増加。野生鳥獣の個体数が増加し、食害による森林荒廃、農林業被害が深刻化。



□ 災害の激甚化

森林の二酸化炭素吸収量の減少等も相まって、地球温暖化が進行

静岡県HPより

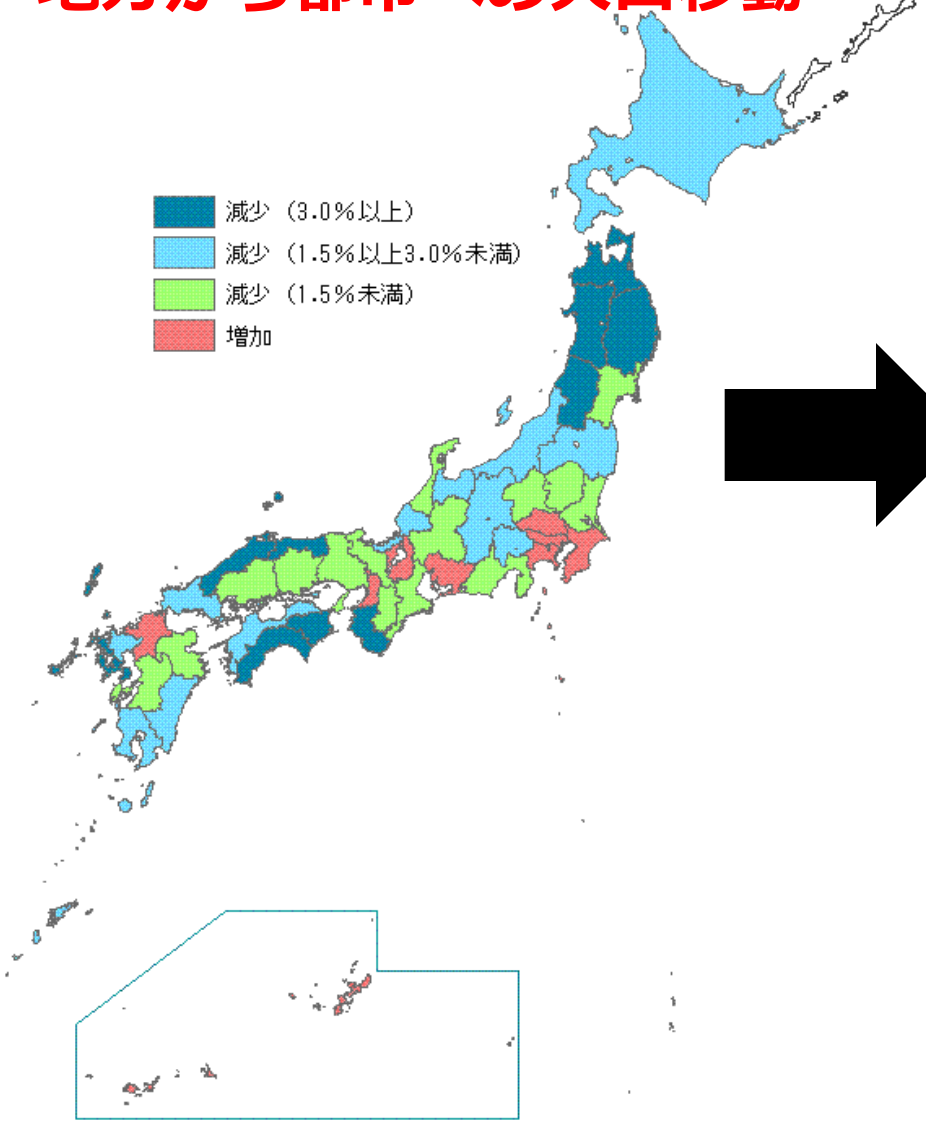
気候変動に加え、森里川海が荒廃することにより土砂防止・保水機能が低下

2013年台風25号の被害（伊豆大島）

森里川海の恵みを生み出す地方の人口減少

都道府県別人口増減率（平成17年～22年）

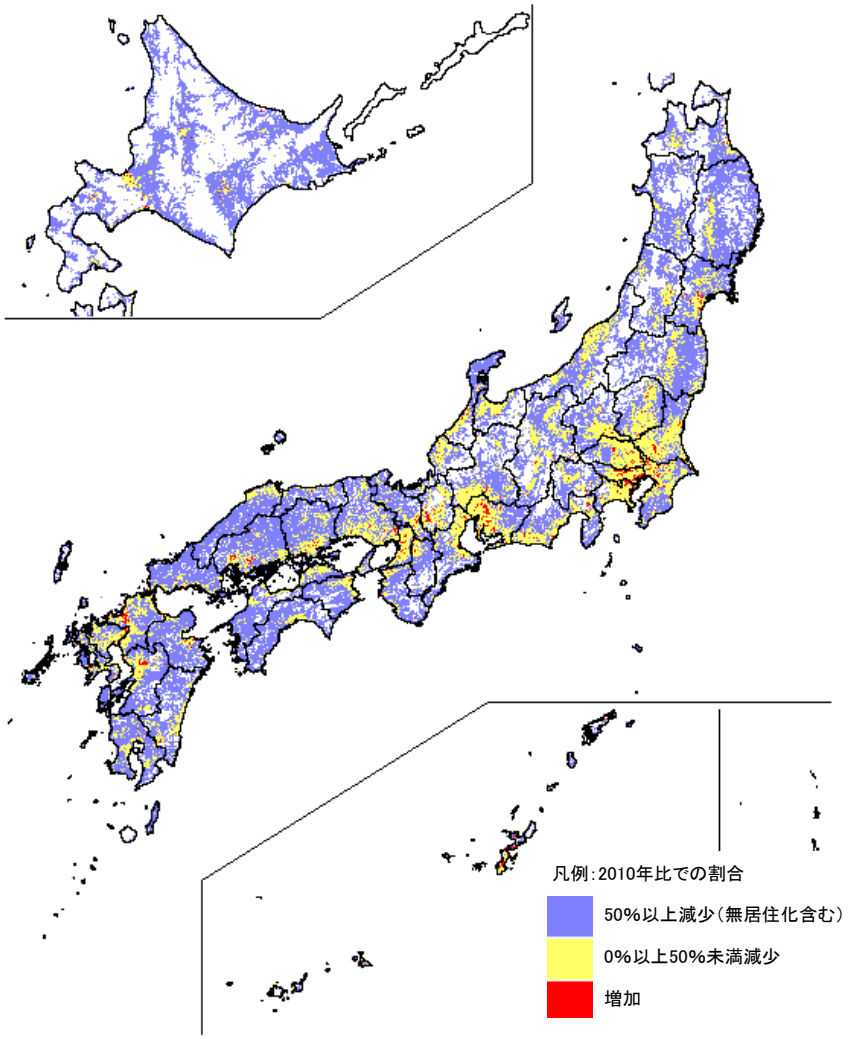
地方から都市への人口移動



（出典）統計局ホームページ/国勢調査からわかったこと

【2010年を100とした場合の2050年の人口増減状況】

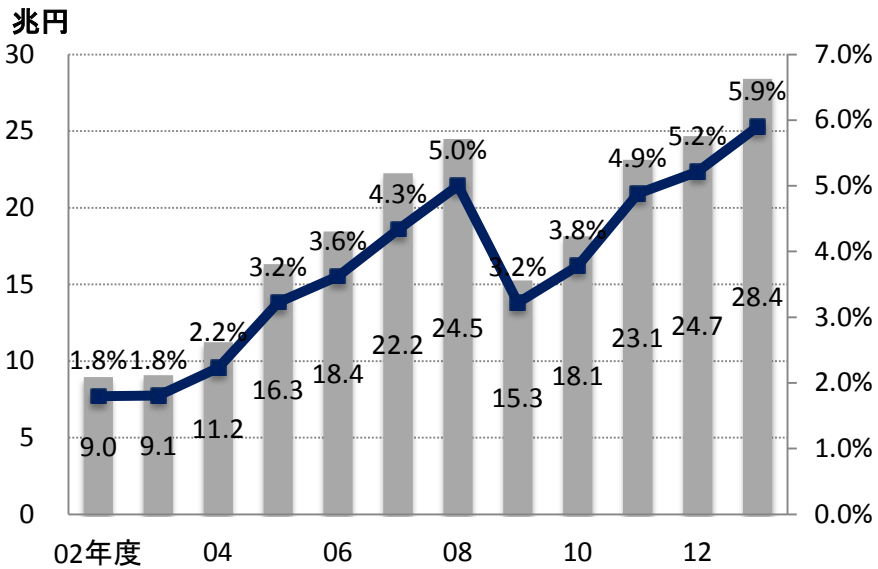
止まらない地方の人口減少



（出典）総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土政策局推計値により国土交通省が作成。
（国土のグランドデザイン2050参考資料）

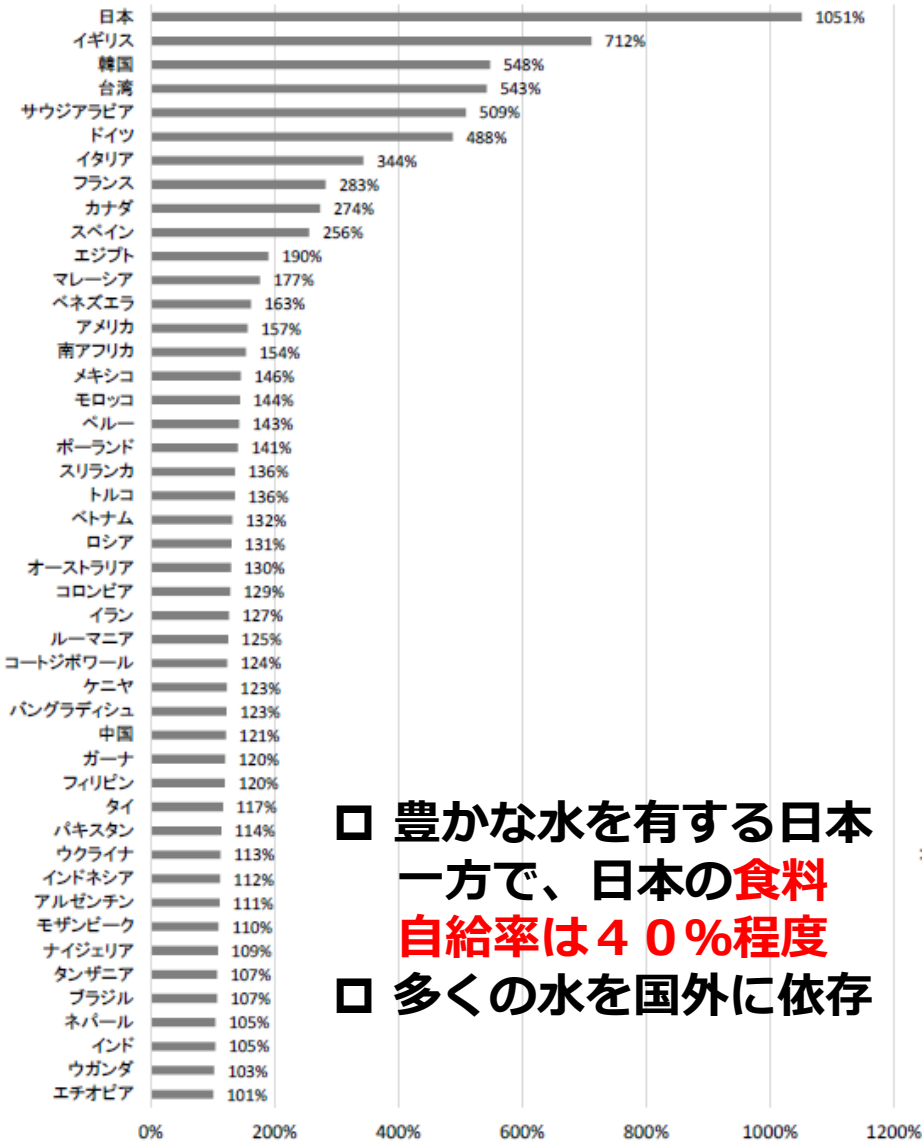
ライフスタイルの変化がもたらす国外への依存

化石燃料の輸入額の推移とGDP比率



出所：財務省貿易統計、内閣府国民経済計算

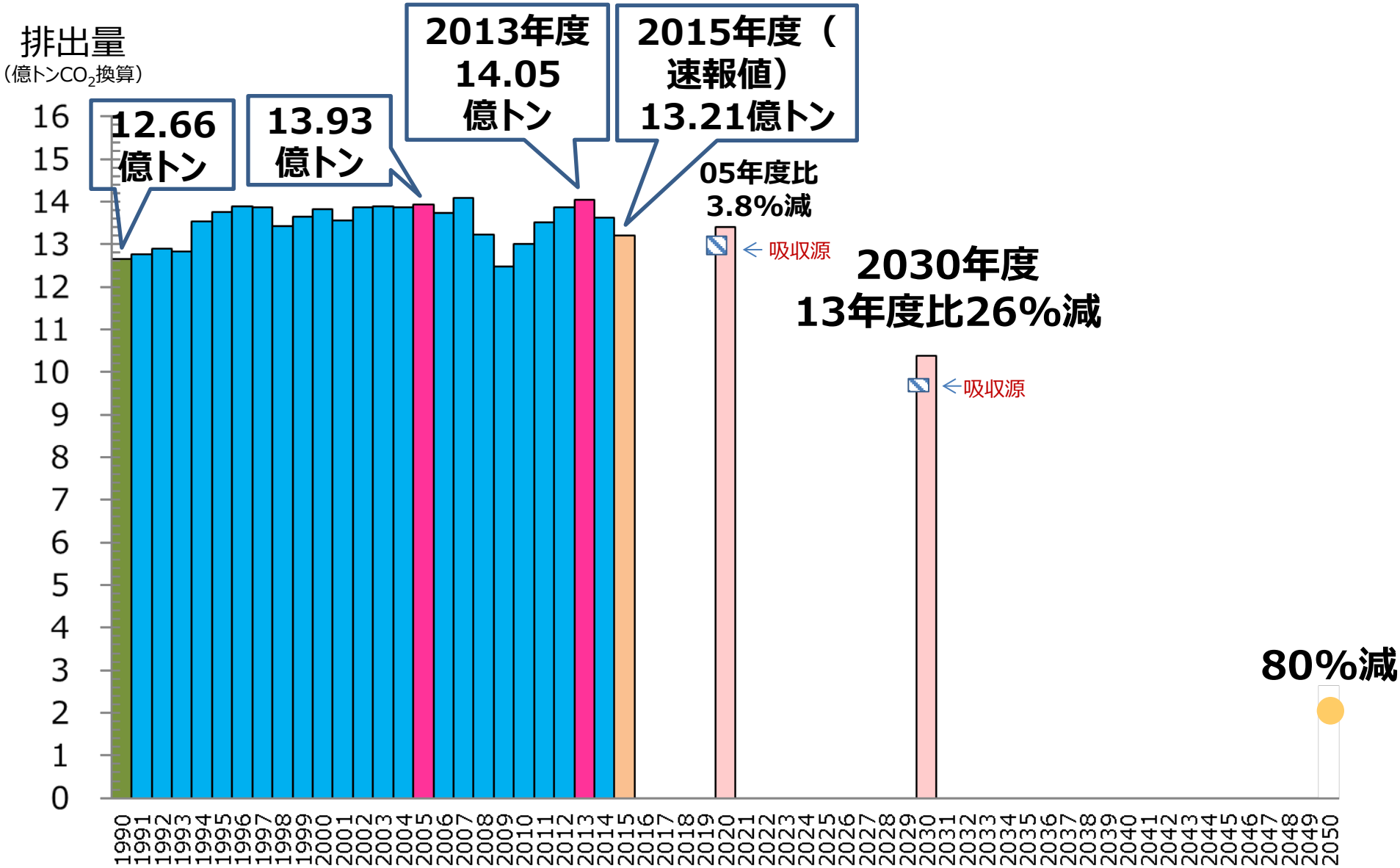
バーチャルウオーター



- □ 里山に依存してきた燃料・資材
- □ その多くを国外へ頼ることにより、里山への**人間の働きかけが減少**

- □ 豊かな水を有する日本一方で、日本の**食料自給率は４０％程度**
- □ 多くの水を国外に依存

日本の温暖化ガス排出量の推移と目標（2015 年度速報値）

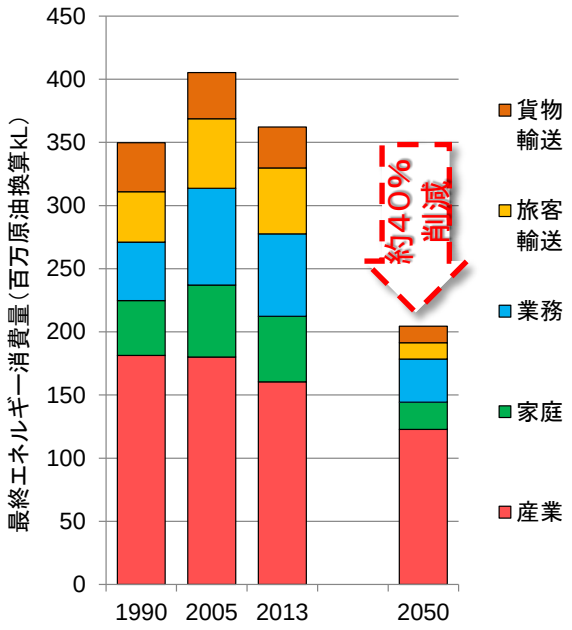


（出所）「2015 年度の温室効果ガス排出量（速報値）」及び「地球温暖化対策計画」から作成

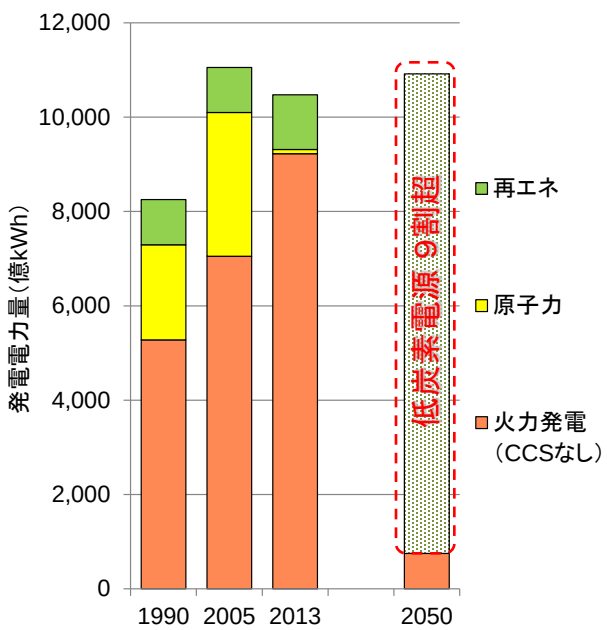
2050年80%削減に向けた試算の一例

- 2050年に向けて、エネルギー消費量の削減、使用するエネルギーの低炭素化、利用エネルギーの転換等による温室効果ガス80%削減の可能性について検討を行った。
- その結果、試算の一例として、以下のような技術的可能性を見出すことができた。
- こうした低炭素型社会への大転換・変革を進めるため、技術やライフスタイル、経済社会システムのイノベーションを引き起こしていくことが必要である。

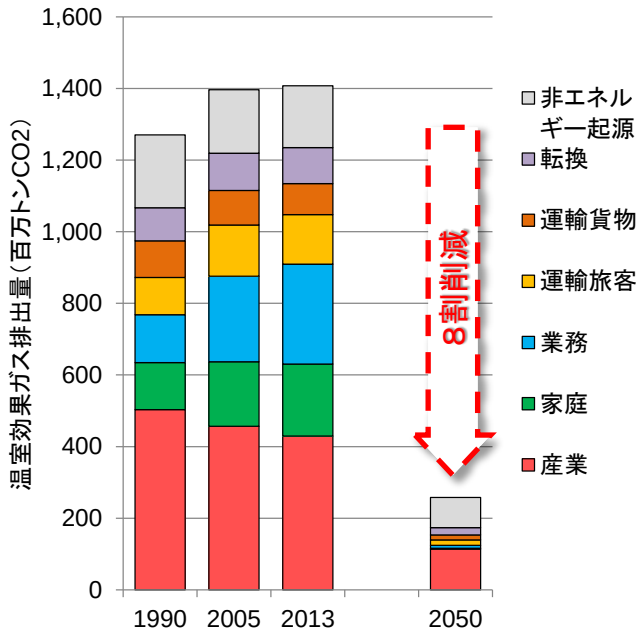
最終エネルギー消費量



発電電力量



温室効果ガス排出量



産業：農林水産業，鉱業，建設業，製造業
業務：商業・飲食・宿泊・公務・娯楽・教育研究・医療保健福祉などサービス業

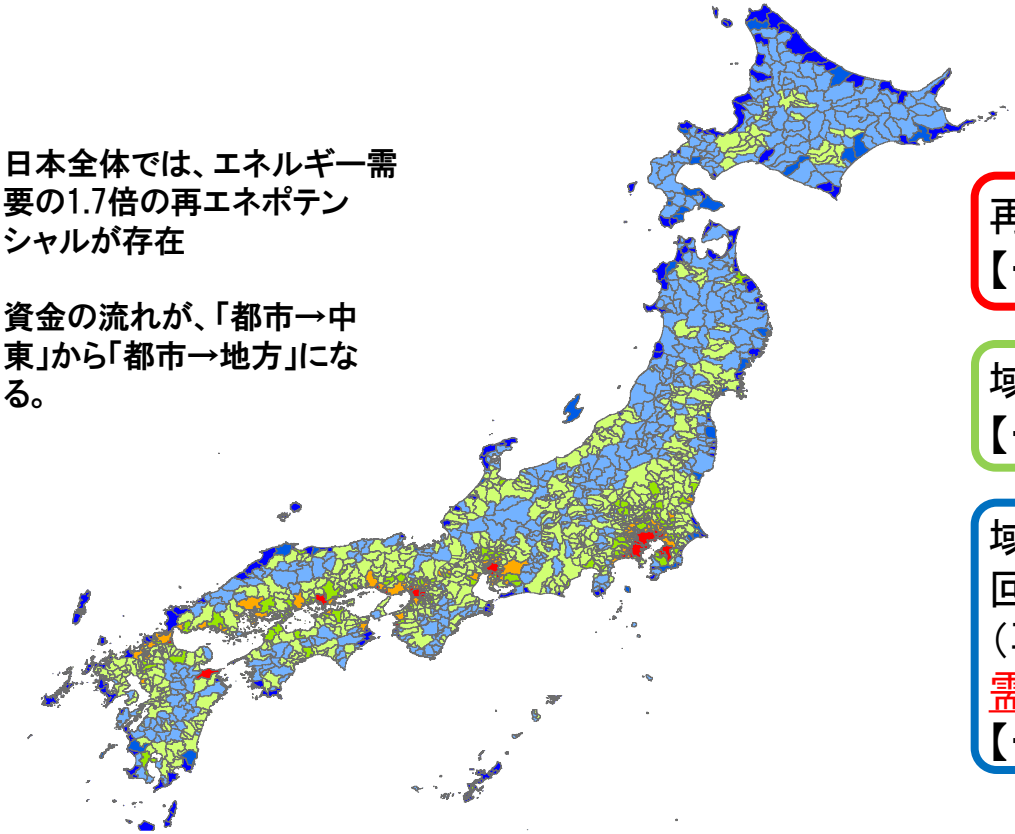
再生可能エネルギーのポテンシャル（再生可能エネルギーの地域間連携）

- **2050年80%削減に向けて、再生可能エネルギーのポテンシャルが豊富な地方と都市との連携が不可欠になると考えられる。**

「他方で、全国の全ての地域がその地域から生み出される再生可能エネルギーのみを活用したとしても、温室効果ガスの大幅な削減は困難と考えられます。それは、エネルギー需要が大きい「3大都市圏」それ以外の「地方」、また同じ都道府県内であっても「人口の集中する都市」と「少ない地方」といったように、エネルギーの需要の程度は様々で、エネルギーの需要の多い地域は、地域内の再生可能エネルギーでその需要を賄うことが難しいためです。そこで、こうした地域間が連携し、エネルギー需要の少ない地域（エネルギーの需要密度が低い地域）からエネルギー需要の多い地域（エネルギーの需要密度が高い地域）へ再生可能エネルギーを供給することで、国全体で温室効果ガスの大幅削減につながると考えられます。」（平成27年版環境白書）

日本全体では、エネルギー需要の1.7倍の再エネポテンシャルが存在

資金の流れが、「都市→中東」から「都市→地方」になる。



2050年80%削減を達成するためには

再エネを他地域から購入する地域
【一人あたりGDP　681万円】

域内の再エネでほぼ自給できる地域
【一人あたりGDP　334万円】

域内の再エネがエネルギー需要を上回り、地域外に販売し得る地域
（再エネポテンシャルは、エネルギー需要の約20倍）
【一人あたりGDP　315万円】

小　再エネポテンシャル　大

「平成27年版環境白書」より抜粋
※再エネポテンシャルからエネルギー消費量を差し引いたもの。実際に導入するには、技術や採算性などの課題があり、導入可能量とは異なる。
※今後の省エネの効果は考慮していない。

中央環境審議会意見具申（平成26年7月）

「低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築～『環境・生命文明社会の創造』～」

互いに影響し合い複合化する環境・経済・社会の諸問題

環　境
- 顕在化しつつある気候変動問題
- 生物多様性の減少
- 資源の大量消費・大量廃棄
- 化学物質リスク、除染、公害健康被害の補償・救済

経　済
- 新たな成長分野の開拓の必要性
- 化石燃料の大量輸入による資金流出
- 社会保障費の増大と財政赤字
- 地域経済の疲弊

社　会
- 人口減少・超高齢化、地方の“消滅”
- 市街地の拡散等による交通弱者の発生等
- 東日本大震災を契機とした価値観の変化
- コミュニティの衰退

現時代が直面する複合的諸課題にトータルに鋭く切り込む新たなアプローチ

ビジョン

環境と生命・暮らしを第一義とする文明論的時代認識と真に持続可能な循環共生型の社会像の追求　～環境・生命文明社会の創造～

- ○100年後まで見通した新たなパラダイム
- ○環境への負荷の少ない、循環を基調とする社会経済
- ○地域の主体性を最大限に生かしながら、ネットワーク機能を合わせ持つ魅力あるしなやかな社会の創出
- ○長期的な国の活力と魅力を引き出す国土のグランドデザイン
- ○人と自然のいのちの輝きを実感できる社会
- ○自然の恵みを基調としたコミュニティや伝統文化の再生
- ○健康寿命の延伸と社会保障費の抑制
- ○日本の技術力を生かした地域・世界への貢献

戦略

「技術」、「社会システム」、「ライフスタイル」のイノベーションを主軸として、地域から世界までをカバーする6つの基本戦略を展開

環境と経済の好循環	地域経済循環の拡大	健康で心豊かな暮らしの実現	ストックとしての国土価値の向上	あるべき未来を支える技術の開発・普及	環境外交を通じた22世紀型パラダイムの展開
グリーン経済	地域活性化	健康と豊かさ	国土価値の向上	環境技術	環境外交

低炭素・資源循環・自然共生を束にした統合的な環境政策

環境・生命文明社会の創造のための
３つのｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝを軸とした「６つの基本戦略」

低炭素･資源循環･自然共生政策の統合的アプローチにより、我が国が直面する複合的な諸課題を解決すべく、「技術」「社会システム」「ライフスタイル」のイノベーションを軸として、地域から世界まで6つの基本戦略を展開

活力と魅力ある地域づくりで日本を再生

技術
イノベーション

社会システム
イノベーション

ライフスタイル
イノベーション

〈環境と経済の好循環の実現〉

〈地域経済循環の拡大〉

〈健康で心豊かな暮らしの実現〉

〈ストックとしての国土の価値向上〉

〈あるべき未来を支える技術の開発・普及〉

〈環境外交を通じた
新たな22世紀型パラダイムの展開〉

日本発で世界をリード

2030アジェンダと持続可能な開発目標(SDGs)

- 2015年9月、国連総会で持続可能な開発目標(SDGs)を中核とする「2030アジェンダ」が採択。
- SDGsは、リオ＋20で提唱された「環境・経済・社会の3側面統合」とミレニアム開発目標（MDGs）の流れを受けた持続可能な開発に関する2030年の世界目標。

■SDGsに至る2つの流れ

国連持続可能な開発会議（リオ＋20）
環境・経済・社会の3側面統合

ミレニアム開発目標(MDGs)
持続可能な開発に関する2015年目標

■SDGsの概要

- **2030年の世界目標。**
- **17ゴール**、169ターゲットから構成。
- MDGsと比較して、**環境的側面が大幅に増加**。

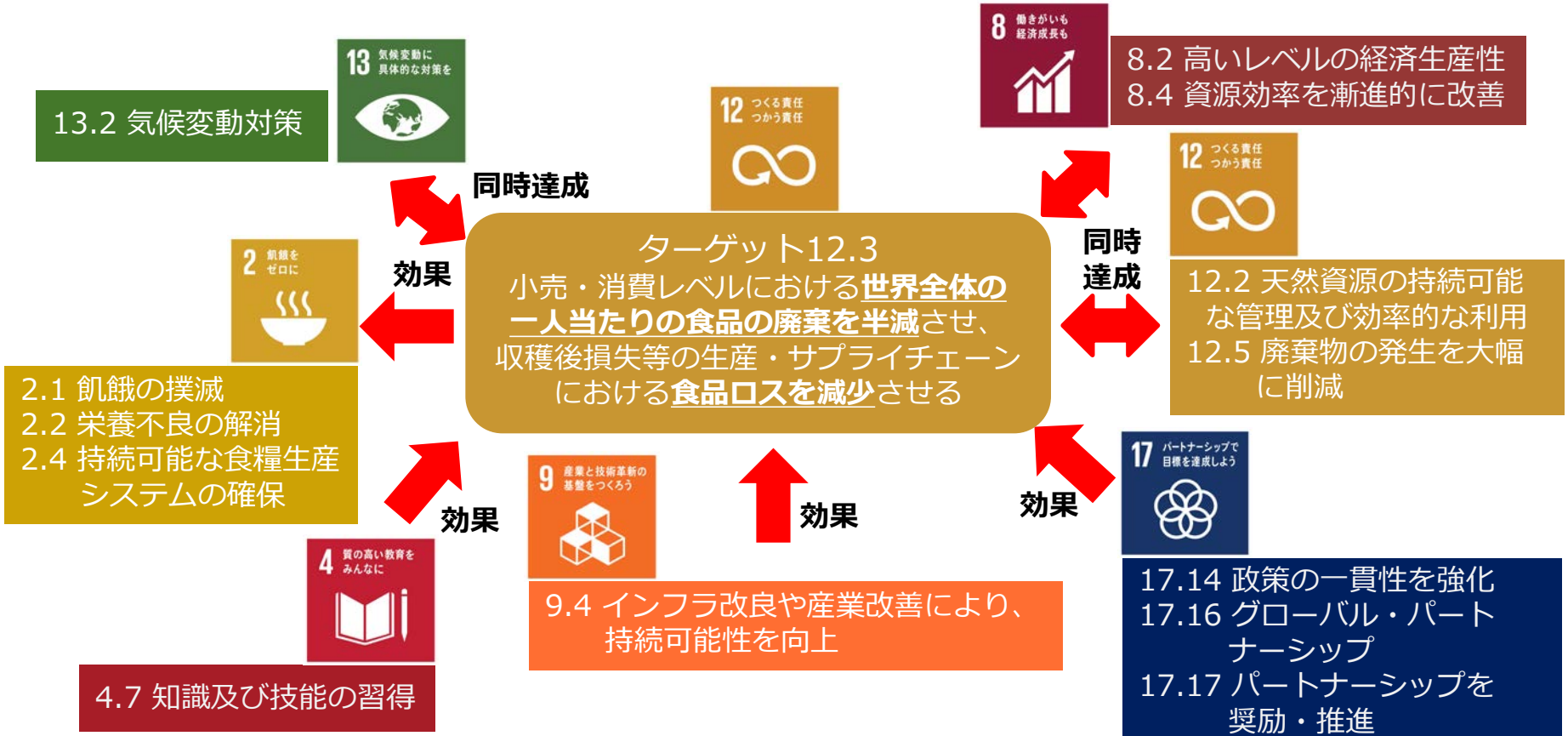
■SDGsの基本的な考え方

- 全ての国に普遍的に適用され、**「誰一人取り残さない」**を基本方針とする。
- 持続可能な開発のキーワードとして、
  人間(People)
  地球(Planet)
  繁栄(Prosperity)
  平和(Peace)
  連帯(Partnership)
  の**「5つのP」**を掲げる。

SDGsの各ゴールの関係

- SDGsのゴールとターゲットは統合され、不可分のものであり、環境・経済・社会の持続可能な開発の3側面を統合的に向上する必要がある。
- 環境が人類の生存基盤であり、社会経済活動は良好な環境があって初めて持続的に行うことができる。環境と関わりの深いゴールの達成を通じて、経済・社会の諸課題の同時解決につなげることが重要。

■「食品ロスの削減」の事例



資料：蟹江憲史資料(2017)より環境省作成

SDGs達成に向けた国際社会の取組

- 国際社会では、SDGs達成を後押しするため、国際機関、国・地域において様々な取組を実施。

国連の取組

- **ハイレベル政治フォーラム(HLPF)**において、各国が自国のSDGs推進の進捗をレビュー。
- 我が国は、2017年のHLPFでレビューを実施予定。

OECD 経済協力開発機構の取組

- 2016年12月、**「SDGsに関するOECD行動計画」**を承認。
- **「2030アジェンダに関する理事会」**を設置。

ドイツの取組

- 首相府に**「持続可能な開発審議会」**を設置。
- 2017年1月、**「国家持続可能発展戦略」**を改訂。

中国の取組

- 2016年10月、**「持続可能な開発のための2030アジェンダ実行のための国家戦略」**を発表。

■SDGs推進状況の評価

- 2016年7月、ドイツのベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（SDSN）が、SDGs達成に向けた各国の進捗状況を発表。
- 北欧諸国が上位。日本は149か国中18位。
- 日本は、ゴール1(貧困)、5(ジェンダー平等)、**7(エネルギー)、13(気候変動)、14(海洋)、15(生態系・森林)**、 17(パートナーシップ) に、 達成度の低い指標が含まれると指摘。

日本のSDGsの進捗状況の評価結果

注：緑色は「達成の度合いが高い」、黄色は「達成の度合いが中程度」、赤色は「達成の度合いが低い」指標が含まれていることを示す。
資料：ベルテルスマン財団、SDSN「SDG INDEX & DASHBOARDS」より環境省作成

地域循環共生圏とは　～地域が自立し、支え合う関係づくり～

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト

私たちの暮らしを支える「森里川海」。それが今、過度の開発や利用、管理の不足などにより、つながりが分断されたり、質が低下しています。人口減少、高齢化が進行する中で、どのように森里川海を管理し、それを通じて地方を創生していくか、官民一体となって考えていく必要があります。

環境省では、「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとして、地方公共団体、有識者、先進的な取組を行っている方々との対話や議論を行いながら、森里川海の恵みを将来にわたって享受し、安全で豊かな国づくりを行うための基本的な考え方と対策の方向をとりまとめ、全国で取組を進めていきます。

■　プロジェクトチームの立ち上げ

官房長をチーム長として、総合環境政策局、自然環境局、水・大気環境局及び地球環境局の職員、外部アドバイザー（有識者）で構成するプロジェクトチームを設置。また、広く地方公共団体、有識者、先進的な取組を行っている方々等と意見交換を行いながら基本的な考え方と対策の方向のとりまとめを行う。

プロジェクトチーム

- チーム長　　官房長
- 副チーム長
  大臣官房審議官（総合政策、自然環境、水・大気環境担当の３名）
- 主査等チーム員
  総合政策局、自然環境局、水・大気環境局、地球環境局から指名
- 外部アドバイザー
  有識者５名程度

連携・意見交換

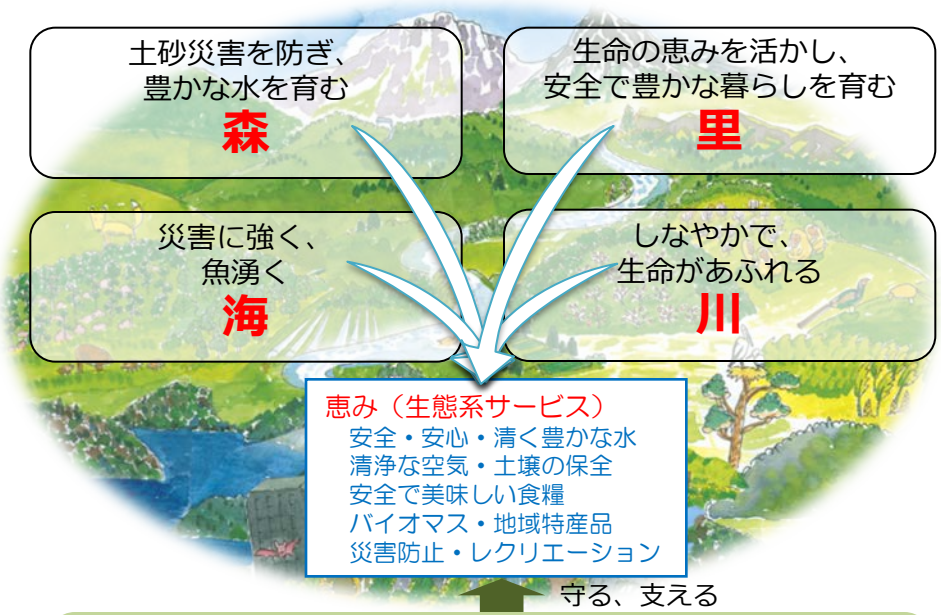
チーム外

- 関係省庁
- 地方公共団体
- 有識者
- 先進的な取組を行っている方々

官民一体となってとりまとめ

※　プロジェクト名称「つなげよう、支えよう森里川海」について
自然資源を象徴する「森」「里」「川」「海」を保全してつなげること、また、それぞれに関わる人をつなげること、そして、都市部に住む人たちも含めて国民全体で「森里川海」の保全とそれに関わる人たちを支えることを示している

私たちの暮らしを支える森里川海



自然の恵みを引き出す仕組みの構築やライフスタイルの転換

■　これまでの流れ

26年12月	「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトチーム立ち上げ、第１回勉強会
27年１～６月	勉強会、意見交換会、公開シンポジウム等
６月	中間とりまとめ
10月～28年２月	全国リレーフォーラム、総括シンポジウム
28年９月	提言の公表

基本原則

○ **人口減少・高齢化社会が進むことを逆手にとる**

○ **地方創生に貢献**

- 自然資本の手入れ（管理）を推進することで雇用が生まれる
- 地域の人のつながりが生まれる

○ **森里川海のある地域だけでなく、国全体で支える**

- 森里川海の恵みは、その地域に限定されない。将来世代のためにもみんなで支える必要

○ **縦割りを解消し、関係者間、地域間の一層の連携**

- 森里川海のつながりを考え、取組をつなぎ、地域をつないでいく必要

○ **わかりやすく目指す姿を設定し、バックキャスティングアプローチをとる**

- 一つのわかりやすい目標があることで、複数の行政や地域が連携しやすい

○ **別の目的のための取組にも配慮を促す**

- 災害対策や農林水産業の推進などの別の目的として行われてきた取組についても、森里川海を豊かに保ち、恵みを引き出すことを前提に。

プロジェクトの目標

○ 森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵み（清浄な空気、豊かな水、食料・資材等の恵みを供給する力や自然災害へのしなやかな対応力等）を引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

○ 一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方（消費行動や休暇の過ごし方など）を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。

森里川海で拓く成熟した社会づくり

森里川海に手とつながる**新しいライフスタイル**により、**地域経済の好循環**と
心と体が満たされる真に豊かな暮らしを実現し、新たな未来を描いていくことが必要

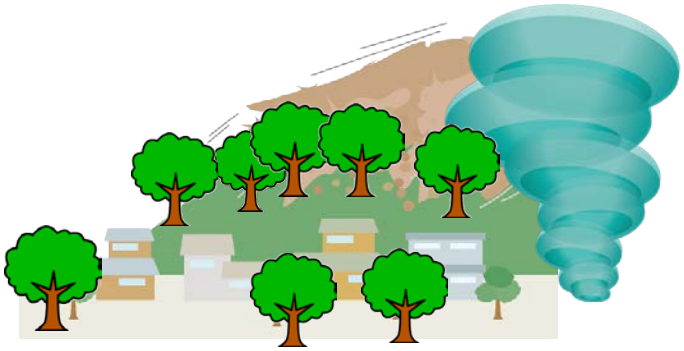
**恵みを活用
地域経済の
好循環**

- 再生可能エネルギーの活用で地域循環を回す
- 個性ある風土づくりで交流人口を図る
- 少量多品種、高付加価値化の一次産品づくり

地域の産品（山菜）

バイオマス発電

- 生態系を活用して防災減災を図る



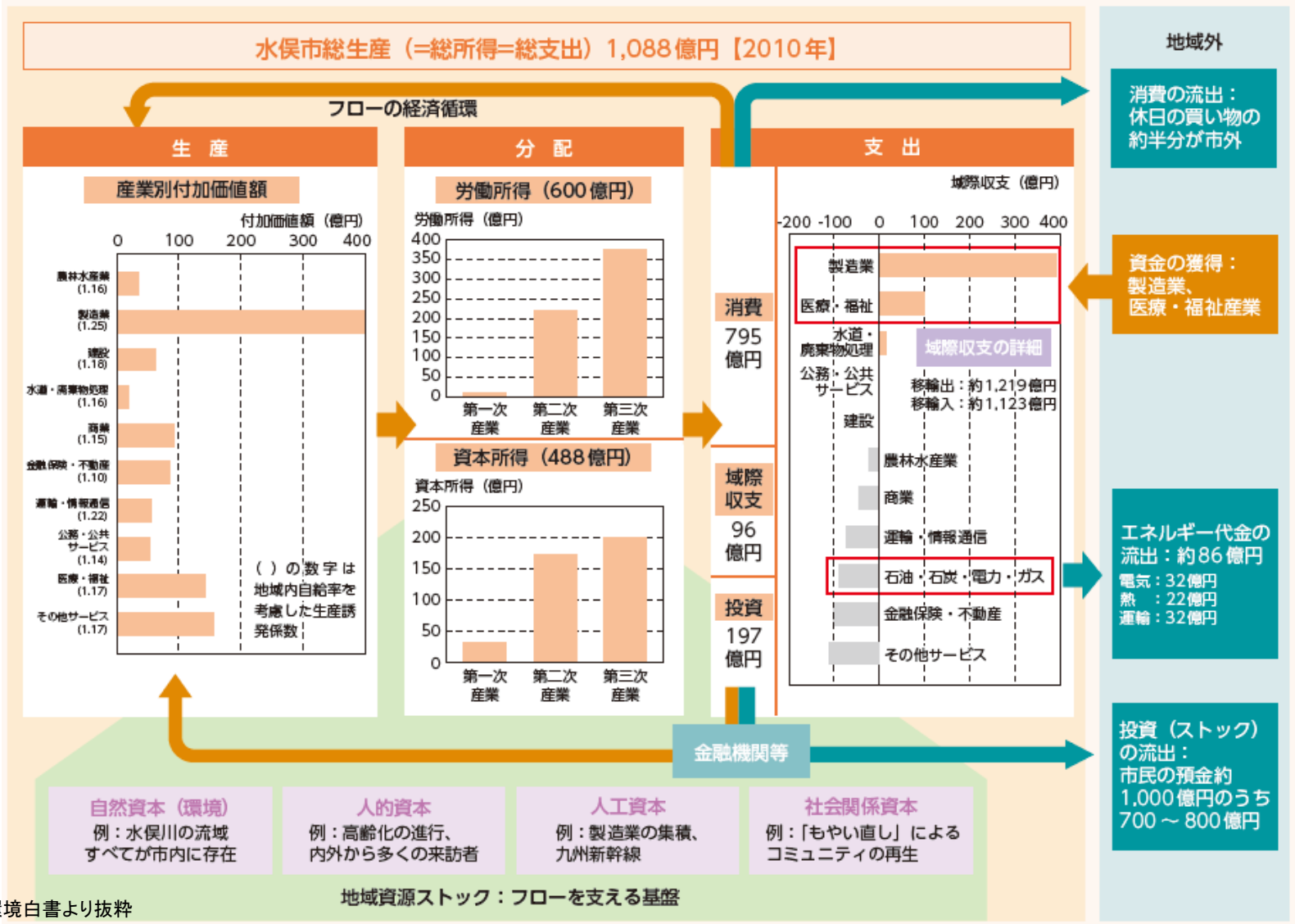
- 安心・安全な衣食住を提供する

身体にも環境にも優しい商品

**安心・安全
豊かさ**

地域経済循環分析：ストックの上に成り立つフロー

- 地域の資金の流れを循環構造に沿って見ることで、地域の「強み」と「課題」を定量的に明らかにする
- 健全なフローの経済が成り立つためには、自然資本をはじめとした地域資源（ストック）の充実が必要
- また、「再生可能エネルギー」という地域資源を活用することで、エネルギー代金の地域外への流出が削減できる



平成27年版環境白書より抜粋

地域の草の根の取組－８つの地域プログラム

森林のメタボ解消・健全化プログラム

日本の森林の蓄積量は過去最大。これを活用し、森林のCO_2吸収機能を高めつつ、森林資源を将来につなぐための事業を実施。

＜具体的な活動例＞
- 生物多様性を豊かにする森林施業のガイドライン作成・普及
- 生産材や製品の認証取得促進
- 木材の消費行動の適正化推進
- 木材市場の活性化　　等

生態系を活用したしなやかな災害対策

国土利用のあり方を人口減少社会にふさわしいものに見直す。森林、河川、農地の間の切れ目のない災害対策が重要。

＜具体的な活動例＞
- 地域毎の土地利用計画の見直し
- 自然の防潮堤ともいえるサンゴ礁に負担をかけない土地利用
- 自立分散型の再生エネルギーの活用　　等

江戸前などの地域産食材再生のための環境づくり

ウナギやアサリをはじめとする魚介類などを持続的に利用するために、山から川、海のつながりを見直し、環境の改善を図る。

＜具体的な活動例＞
- 河川内の生き物の移動を阻害する段差の解消
- 藻場・干潟の再生
- 海域の環境改善のための植林、湿地の再生等
- 「里海」づくり活動の推進

トキやコウノトリなどが舞う国土づくり

トキやコウノトリ、ツル類、猛禽類などの大型鳥類が生息できることを指標にして、国土、地域の環境づくりを促進。

＜具体的な活動例＞
- 多くの生き物が生息できる水田環境づくり
- 生き物にやさしい農業の推進
- 田んぼと水路の生き物の移動を阻害する段差の解消
- 「一村一生物運動」の推進等

具体的な取組アイデア　地域の草の根の取組－８つの地域プログラム

美しい日本の風景再生プログラム

「美しさ」、「心地よさ」も自然の恵みの一つ。圧倒的な雄大さや機能的な美しさは、人の心を育てるだけでなく、観光資源としても重要。

＜具体的な活動例＞
- 北斎などの風景再生
- 雄大な草原の再生
- 視点場の再生・整備
- 伝統野菜や料理の復活
- 「日本のふるさと」体験型観光の推進　　等

森里川海からの産業創造プログラム

自然資本財を活用した新たな産業の創造や、各種産業にとっての魅力的な環境を整備。

＜具体的な活動例＞
- 企業と地域などをマッチングさせる仕組み
- 産業創出のための研究開発の推進
- 市民ファンドによる再生可能エネルギー発電の実施　　等

鳥獣等から国土・国民生活を守るプログラム

農林業、生活環境、生態系をおびやかすニホンジカやイノシシなどの鳥獣の必要な捕獲等の対策ができる社会づくりを行う。

＜具体的な活動例＞
- 捕獲をプロとして行う専門的捕獲事業者の育成
- 鳥獣の人間のたんぱく源としての再評価、ジビエの振興　等

自然資本を活かした健康で心豊かな社会づくりプログラム

自然の恵みを活かした安全な食・衣、健康的な暮らし、伝統的な知恵の活用により、真に心豊かで健康な生涯を全うできる社会をつくる。

＜具体的な活動例＞
- 季節の旬を意識した食
- 温泉療法や薬草などによる伝統医療、ヘルスツーリズムの推進
- 福祉視察と連携した自然再生　　等

実現に向けた仕組み

国民・地域からのボトムアップの取組で社会の在り方を変革する新たな仕組みを導入
⇒自然の劣化を引き起こす社会から、自然を豊かに再生し恵みを引き出す社会に転換

自然の恵みを享受している国民一人ひとりが少額ずつ負担
(自然へのおさい銭・次世代への貯金)

自然へのおさい銭
次世代への貯金

森里川海協議会で議論

使途は、森里川海協議会で議論し、負担する国民の意見を幅広く反映するとともに、透明性を確保

自然の恵みを引き出す取組

国、自治体、企業、住民・NPOによる幅広い取組を通じて、自然の恵みを引き出す

森里川海循環共生協議会と地域創造ファンドの創設

森里川海循環共生協議会（仮称）

行政

企業

住民

専門家

NGO、NPO

継続的な運営が可能に

森里川海を支える人材の育成

各分野・活動を統合して実施

- ◆ 森林保全・利用
- ◆ 自然環境の保全・再生
- ◆ 衣食住
- ◆ エネルギー
- ◆ 健康
- ◆ 観光・交流
- ◆ 文化・伝統
- ◆ 教育・自然体験　　など

地域の課題・活動

資金

地域創造ファンド

基　金

- ◆ ふるさと納税
- ◆ 特典ポイントの活用
- ◆ 企業・個人からの寄付
- ◆ カーボンオフセット
- ◆ 地域の金融機関等からの出資
- ◆ クラウドファイナンス　　など

森里川海をつなぎ、保全しつつ、衣食住やエネルギーなどのくらしの基盤を見直し、自然の恵みを最大限に引き出す**ライフスタイルの転換**を図る。

これにより、低炭素・循環資源・自然共生が同時に達成される**真に持続可能な循環共生型の地域社会を創造**する。

ライフスタイルの変革－3つの全国プログラム

森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム

子どもたちが、森里川海の中で遊んで自然を身近に感じ、その恵みを知る機会を増やすことにより、森里川海を将来世代につないでいく。

＜具体的な活動例＞
- 川ガキ・山ガキ・海ガキ養成学校開校
- 子どもの農山漁村体験促進
- 身近な川や田んぼの調査
- 森里川海大好き読本（仮称）の作成
- 森里川海の生業講座の開設　等

森里川海とつながるライフスタイルへの転換

一人一人の消費行動や余暇の時間の過ごし方を考え、転換することで、日々森里川海の恵みを意識し、暮らしを通じて森里川海の管理に貢献する。

＜具体的な活動例＞
- 地域産食材や環境配慮食材の購入促進
- 木材の消費行動の適正化の推進
- エコツーリズム推進
- 森里川海の管理に貢献する２地域居住の推進
- 環境に配慮したファッション等との連携による若者世代への啓発　等

森里川海の恵みの見える化プログラム

私たちが森里川海の恵みに支えられていることを実感できるよう、わかりやすく可視化をする。可視化については、地域の子どもや市民を巻き込みつつ進める。

＜具体的な活動例＞
- 流域を意識した森里川海の恵みマップづくり
- モニタリング１０００、生物多様性MY行動宣言の活用・充実
- 森里川海の健康診断
- 食や衣料の生産過程の可視化　等

全国リレーフォーラムの実施

キックオフイベント
10月30日　@汐留

全国４７箇所リレーフォーラム

ミニフォーラム
全国39箇所
＋
シンポジウム
全国8箇所

プロジェクトの主旨に賛同する各地の団体主催のイベントとも連携

総括シンポジウム
2月20日　@富山

プロジェクトの普及

国民一人一人が、森里川海の恵みを実感し、その恵みを社会全体で支えていくという想いを広げていく。

ボトムアップによる推進

地域で既に進められている取組の現状や課題を洗い出し、個別プログラムや仕組みづくりなどに活かす。

延べ４千人の方に参加いただきました

「私たちにできるアクション」

森里川海のつながり保全・再生

人工林の集約
里山との関わり
山を元気に！
原点は森から
みんな水で生かされている
森は海の恋人
山から海までの水のつながりをしなしなやろう
川を元に戻す!!
酒匂川の自然・森・体験
水のつながり
身近なところ出来る事から
山林の保全→川海の保全
親水でつなぐ森里川海
豊かな自然をみんなで作る
源流～川までの一貫した環境教育
再生

取組の連携

つなげる
じゅんかん
連携
行政と市民の連携
行動から繋がりへ
友産友消チーム

つなぐ人

皆で力を合わせる
仲人
国民総活躍のボランティア
多くの人が参加できる仕組み
市民みんなが10本間伐
人材育成
リーダー
人を残す・呼ぶ

活用＝稼ぐ“しくみ”

財源
食える農林水産業
地産地消
食べて応援
人が生活できる
里山資本主義
地域活動の継続
緑の資源
森里川海を活かし、働く
様々な循環・環

子供たちのために！

子どもの笑顔
子供と命
未来の子供達
原風景を子供達に伝える

自然は楽しい！

しあわせ体験
みんな共遊
生きものと共に遊ぶ・楽しみ・そして愛
楽しさとご利益で行動
遊びスターもりかわさとみ☆
垣根を越えて汗を流そう

郷土愛

吉備の国＝美人を増やそう！
〇〇人の心と懐

知る－意識 伝える－体験する

気付き
自然から感謝される人になろう!!,
地域で楽しみながらつながる！
自然環境の恵み
農産者の営みは日本の消費を支えている
大人子どもの環境教育・意識の向上
自然と親しむ
意識する自然
自然を取り戻す活動を考える！
現状を知る
先ずは「感心」を高める事から！
気づき・知ることから
価値を知る
自然体験
再認識
現場を知ってもらう
何もない田舎なんてないっ!!

ライフスタイルの変革

東京五輪を契機としたライフスタイルの転換
自然に守られている私!!
非日常から日常に
オシャレ！
無邪気なライフスタイル
みんなの意識の転換

プロジェクトの今後のアクション

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す取組

- **流域**における森里川海の保全・再生
- 取組同士の**連携**の仕組み
- 取組を支える**人材育成**
- 経済・社会システムとリンクした**資金づくり**

地域で
まわる
仕組み
づくり

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会づくり

- 森里川海の恵みへの意識・支える気持ちの**醸成**
- **子ども達**の笑顔あふれる**自然体験の場づくり**
- オシャレで豊かな**ライフスタイル**の提案

国全体で
支える
社会づくり

平成28年度森里川海プロジェクトの概要

「つなげよう、支えよう森里川海」
中間とりまとめ（H27.6）

↓

提言とりまとめ（H28.9）

←

・全国リレーフォーラムの実施（H27.10～28.2） 参加者からのコメント
・パブリックコメント（H28.5～6）

平成28年　実施事業

1．全国プロジェクト＝国民的運動

①ライフスタイル転換キャンペーン

「クールチョイス」、「NO! フードロス」、「食」や「健康」とも一体となったイベントを全国的に展開

②「森里川海大好き読本（仮称）」の作成

編集委員会を設置し、教員・小中学生を対象とした読本の作成を検討。全国の学校、図書館等へ配布

③普及啓発

ア．ふるさと絵本づくり
イ．シンポジウム、イベントの実施

④情報発信

ア．ホームページの更新
イ．ツイッターでの発信

⑤グッドライフアワードとの連携

2．地域プロジェクト＝実証地域の支援

①対象地域の公募

環境省が応援する実証地域を公募。
10か所を選定し、以下②、③を実施。

②実証地域の支援

ア．多様な主体によるプラットフォームづくり
イ．自立のための経済的仕組みづくり
ウ．人材育成

③効果の測定、課題の抽出

対象地域にもたらした社会的、経済的効果や生態系サービスを測定、併せて課題も抽出

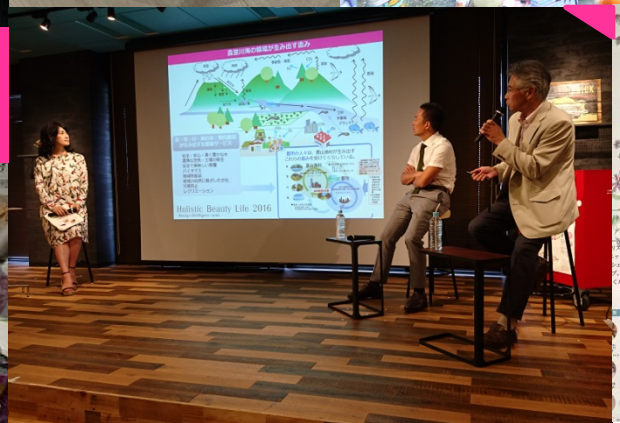
3．実証事業の評価手法検討

各地域での取組が経済や社会、そして生態系サービスにどのように寄与したかを「見える化」

森里川海の恵みを五感で感じる！

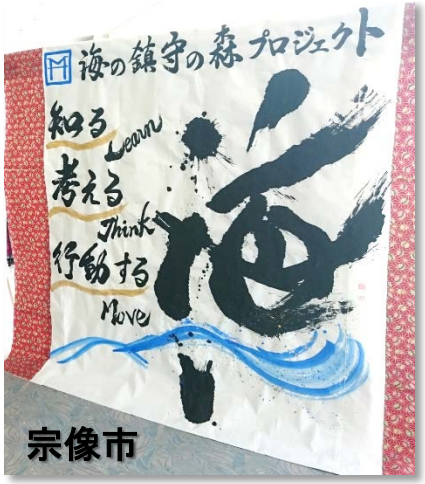
OGAWA Organic Fes－森里川海×食×音楽

Holistic Beauty Life
森里川海×美



実証地域の選定

	実証地域	活動団体
1	宮城県本吉郡南三陸町	一般社団法人 CEPAジャパン
2	神奈川県小田原市	小田原市
3	石川県珠洲市	珠洲市
4	滋賀県東近江市	特定非営利活動法人 まちづくりネット東近江
5	大阪府吹田市・豊能郡能勢町	特定非営利活動法人 大阪自然史センター
6	岡山県高梁川流域	一般社団法人 高梁川流域学校
7	山口県	椹野川河口域・干潟自然再生協議会
8	徳島県吉野川流域	コウノトリ定着推進連絡協議会
9	福岡県宗像市	宗像国際環境会議実行委員会
10	佐賀県鹿島市	鹿島市ラムサール条約推進協議会



- ✓ 多様な主体による プラットフォームづくり
- ✓ 自立のための 経済的仕組みづくり
- ✓ 人材育成

地域で まわる 仕組み づくり

森里川海プロジェクトの今後の展開
－様々な主体の集い・ボトムアップの取組－

地方自治体や民間等との連携による地域プロジェクト

環境・生命文明社会

- 一人ひとりが、自然の恵みや日本の自然観を意識したくらしを実現
- 地域の森里川海の保全・再生にも資金が回る仕組みの実現

つなげよう支えよう森里川海プロジェクト

様々な主体の集い　ボトムアップの取組

地域での具体的な仕組みづくり

国　地域　地域　自治体　民間

子どもの自然体験の場作り

家庭　国　学校　地域　自治体

ライフスタイルの転換

民間　家庭　個人　国　民間

多様な主体との連携による全国プロジェクト

恵みあふれる森里川海を次世代へ